

# PCA-ACUP2 操作手順例

## /// はじめに ///

本手順は PCA-ACUP2 を使用して再生機器からパソコンにサウンドを取り込み MP3 ファイル形式で保存するまでの操作手順例を記載しております。( 下記手順は全て PCA-ACUP2 をパソコンに取り付けた状態で行っております。)

DigionSound6LE.のその他機能に関しましては、DigionSound6LE.を起動しメニューバーの「ヘルプ」「目次」よりオンラインマニュアルをご覧ください。

また、以下の説明文では、初期画面で表示されていた[コントローラ][ミキサーコントロール][選択区間][エフェクトランチャー]等を使用します。これらのウィンドウを閉じてしまった場合、メニューバーの「表示」より再度ウィンドウを立ち上げてください。



## ///目次///

- ・ [録音デバイスの指定](#)
- ・ [録音環境の設定](#)
- ・ [録音音量の調整](#)
  - 1.[Windows 7 / Windows 8 の場合](#)
  - 2.[Windows Vista の場合](#)
  - 3.[Windows XP の場合](#)
- ・ [録音およびドキュメントの保存](#)
- ・ [かんたんエフェクトの利用](#)
- ・ [ファイルへの出力](#)
  - A1.[不要部分の選択とカット](#)
  - A2.[MP3 ファイルへの書き出し](#)
  - B1.[無音部分へキューポイントを設定](#)
  - B2.[キューポイントの追加/削除](#)
  - B3.[キューポイントを使用したサウンド分割](#)

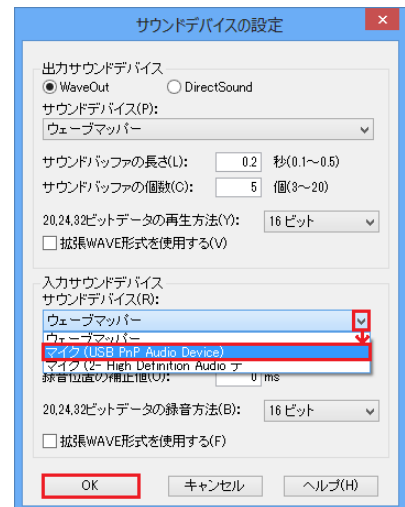
## 録音デバイスの指定

PCA-ACUP2 を録音先のデバイスに設定します。

DigiOnSound6 LEのメニューより「ファイル」 「サウンドデバイスの設定(U)...」を選択します。



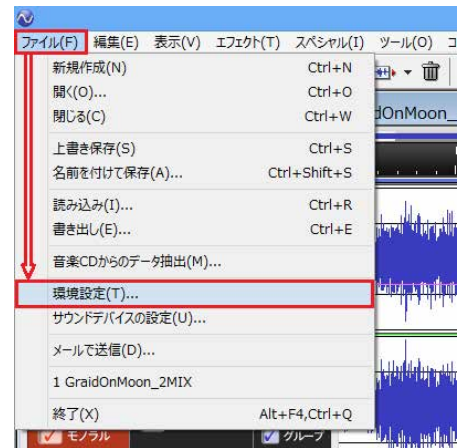
サウンドデバイス設定の画面が開きますので、「入力サウンドデバイス」の項目を『マイク(USB PnP Audio Device)』へ変更し[OK]ボタンをクリックします。



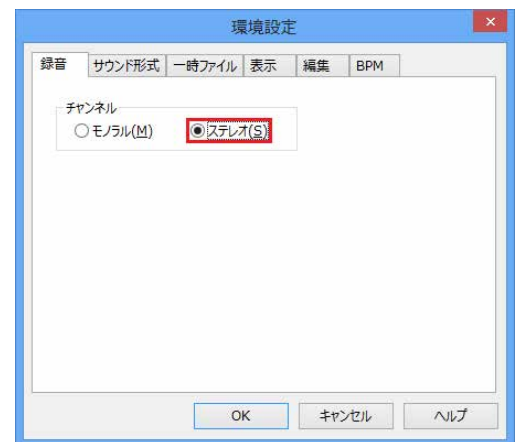
## 録音環境の設定

録音するサウンドのチャンネル等を変更します。

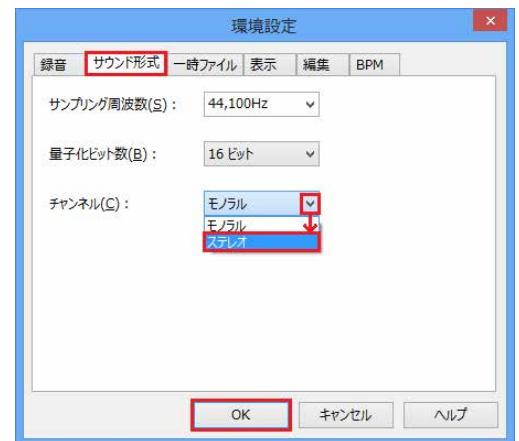
DigiOnSound6 L.E.のメニューより「ファイル」「環境設定(T)...」を選択します。



環境設定の画面が開きましたら【録音】タブのチャンネルの項目を『ステレオ』に変更します。



次に【サウンド形式】タブへ移動してチャンネル(C):の項目を『ステレオ』に変更します。



## ・ 録音音量の調整

OS ごとに録音デバイスの音量調節を行います。

### -1. 録音音量の調整 (Windows 7 / Windows 8 の場合)

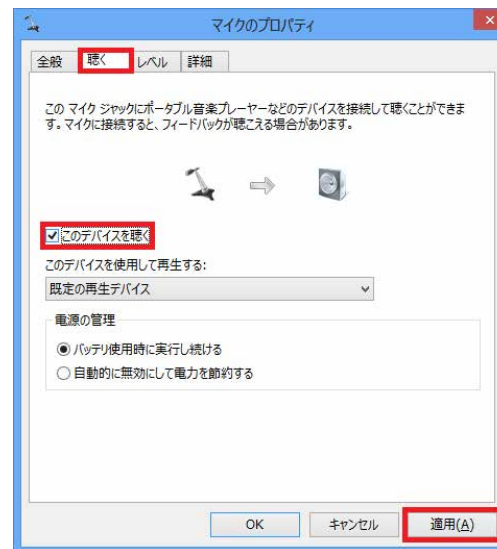
デスクトップ右下のタスクトレイにあるスピーカーアイコンを右クリックしてコンテキストメニューから「録音デバイス(R)」を選択します。



サウンド画面の【録音】タブが開きますので『マイク (USB PnP Audio Device)』を選択して[プロパティ]ボタンをクリックします。



マイクのプロパティ画面が開きますので【聴く】タブへ移動して『このデバイスを聴く』にチェックを入れ[適用(A)]ボタンをクリックします。



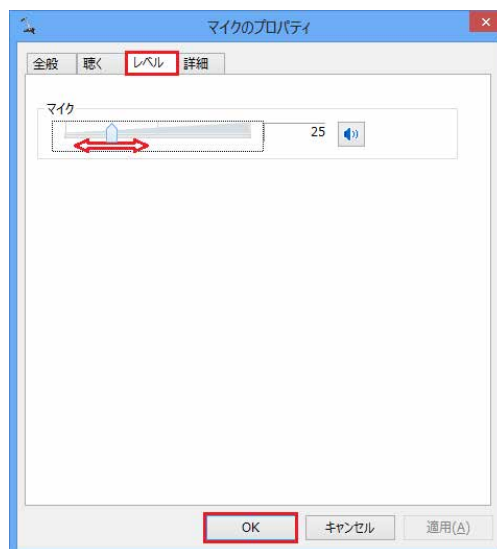
///メモ///

この操作で PCA-ACPU2 から入力した音声がパソコンのスピーカーへ出力されるようになります。

録音音量の調整後は『このデバイスを聴く』にチェックを外しても OK ですが DigionSound6 LE.での録音中の音を確認したい場合はチェックを入れたままにします。

続いて【レベル】タブに移動します。

PCA-ACUP2 に接続している機器より音を出し音量を調整します。パソコンで音楽を聴いている程度の音量になるように調整します。



///メモ///

音量レベルを 10 以下にしてから出力機器から音を出します。

先に出力機器側のボリュームを上げていき、次にマイクの録音レベルを上げます。

録音時のノイズを減らす為、出力機器側の音量を出来るだけ大きくしてマイクの音量レベルを下げるように設定します。

## -2. 録音音量の調整 (Windows Vista の場合)

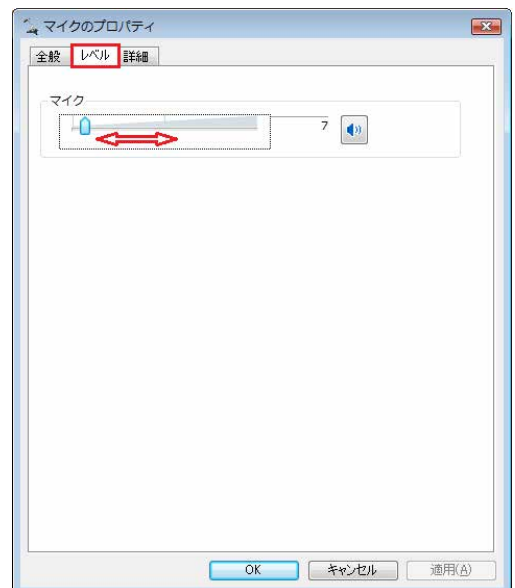
デスクトップ右下のタスクトレイにあるスピーカーアイコンを右クリックしてコンテキストメニューから「録音デバイス(R)」を選択します。



サウンド画面の【録音】タブが開きますので『マイク (USB PnP Audio Device)』を選択して[プロパティ]ボタンをクリックします。



マイクのプロパティ画面が開きますので【レベル】タブに移動し、マイクのボリュームレベルを小さい値にします。



PCA-ACUP2 に接続している機器より音を出し音量を調整します。

DigionSoung6LE.のミキサーコントロールの『ステレオ』及び『モニター』にチェックを入れて音量を調整してください。音量が大きすぎると録音の際、音が歪みますのであまり大きくなりすぎないように調整してください。(サウンドの【録音】タブでも音量の確認は可能です。)

///メモ///

音量レベルを 10 以下にしてから出力機器から音を出します。先に出力機器側のボリュームを上げていき、次にマイクの録音レベルを上げます。録音時のノイズを減らす為、出力機器側の音量を出来るだけ大きくしてマイクの音量レベルを下げるように設定します。



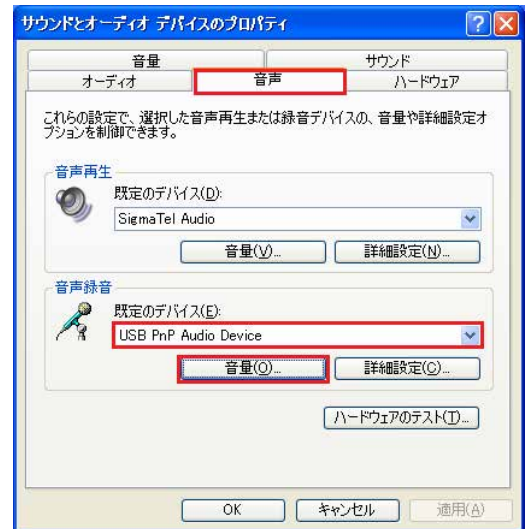
### -3. 録音音量の調整 (Windows XP の場合)

デスクトップ右下のタスクトレイにあるスピーカーアイコンを右クリックしてコンテキストメニューから「オーディオプロパティの調整(A)」を選択します。



サウンドとオーディオ デバイスのプロパティ画面が開きますので【音量】タブへ移動します。

音声録音の欄の既定のデバイスは「USB PnP Audio Device」になっているのを確認して【音量(O)...】ボタンをクリックします。



マイクの音量調整画面が開きますのでスライダを下げてマイクのボリュームレベルを小さい値にします。



PCA-ACUP2 に接続している機器より音を出し音量を調整します。DigionSoung6LE.のミキサーコントロールの『ステレオ』及び『モニター』にチェックを入れて音量を調整してください。音量が大きすぎると録音の際、音が歪みますのであまり大きくなりすぎないように調整してください。



///メモ///

音量レベルが一番下のメモリの一つ上位に調整してから出力機器から音を出します。

先に出力機器側のボリュームを上げていき、次にマイクの録音レベルを上げます。

録音時のノイズを減らす為、出力機器側の音量を出来るだけ大きくしてマイクの音量レベルを下げるように設定します。

## ・ 録音およびドキュメントの保存

録音を行い編集する前のサウンド情報(ドキュメント)を保存します。

「ファイル」 「新規作成(N)」を選択します。  
新たなドキュメントのウィンドウが表示されます。

///メモ///

ドキュメントのウィンドウとはウィンドウタイトルが(サウンド x) (xは数字)  
と表示されているウィンドウのことです。

作成したドキュメントウィンドウをクリック後に「ミキサーコントロール」  
の録音にある『ステレオ』と『モニター』にチェックを入れます。

///メモ///

モニターにチェックを入れることで入力音声のレベルを視覚的に確認する  
ことができます。

出力機器の再生準備ができましたらコントローラの[録音]ボタンを押  
して録音待機状態にします。  
録音待機中は右図のようになります。

録音を開始するには、[再生]ボタンまたは[一時停止]ボタンを押します。  
録音を終了するには[停止]ボタンを押します。

///メモ///

長時間録音される場合、録音停止タイマーを設定しておく便利です。

設定手順は、録音待機状態の前に「コントロール」 「録音停止タイマーの設定(M)...」  
を選択します。

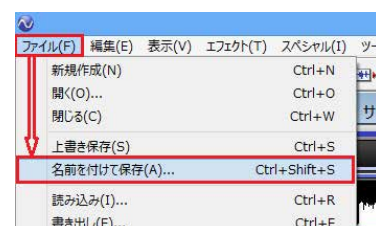
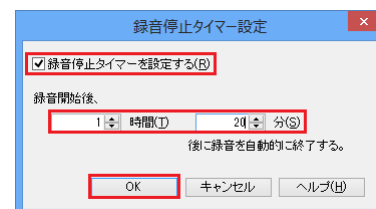
録音停止タイマー設定ウィンドウが表示されますので『録画停止タイマーを設定する  
(R)』にチェックを入れ録音開始後から終了するまでの時間を入力して[OK]ボタンを  
クリックします。

録音が完了しましたら、『録画停止タイマーを設定する(R)』にチェックを外します。

録音が完了しましたら、編集を行う前に「ファイル」 「名前を付けて  
保存(A)...」を選択して DigionSound Format 形式(拡張子:dgs)で保存してく  
ださい。

///メモ///

編集作業に失敗した場合等で最初から編集作業をやり直したい場合に  
このファイルの読み込みを行います。  
ファイルの書き出しも完了し、再度編集をすることが無いようであれば  
本ファイルは必要ありませんので削除してかまいません。



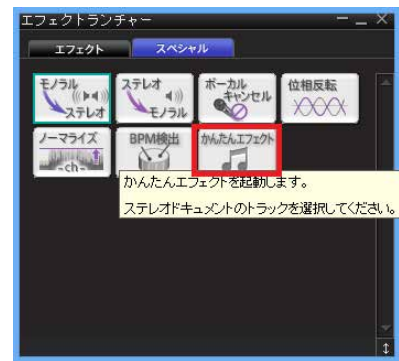
## ・ かんたんエフェクトの利用

録音した音声の音量調整とノイズ除去を行います。

エフェクトランチャーの『かんたんエフェクト』を選択します。

///メモ///

かんたんエフェクトは良く利用されるエフェクトを集めたものです。



かんたんエフェクト画面が起動しますので、適用させたいエフェクトボタンを選択します。

選択後 [OK]ボタンを押すと現在のドキュメントにエフェクトが適用されます。

[OK]ボタンではなく[書き出し]ボタンを押した場合は、現在のドキュメントへの変更は行わず、適用されたサウンドとして新たなドキュメントウィンドウを作成します。

右図では「音量を整える」と「ノイズ除去(シャー)」を適用させています。

///メモ///

エフェクトボタンは「遅聞き」と「早聞き」以外は複数選択可能です。また、選択したエフェクトボタンは青色に反転します。選択しているエフェクト適用後の音声は左上の操作パネルで視聴可能です。





## ． ファイルへの出力

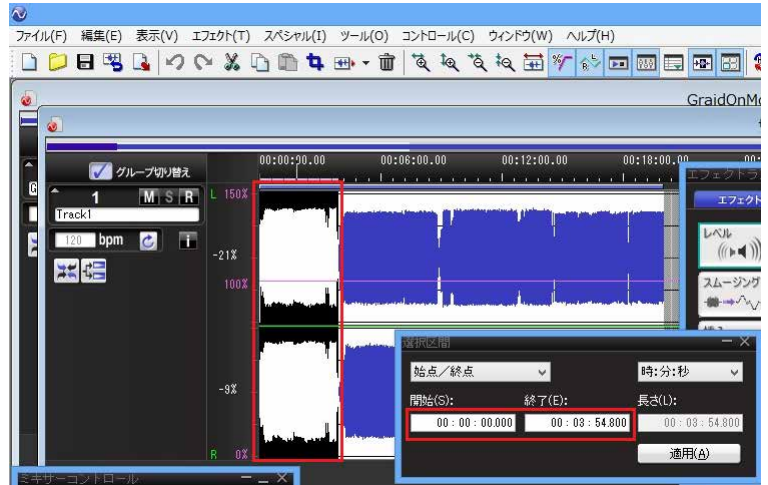
ここでは、録音した音声の不要部分を手動でカットして出力する手順(A)と無音部分で曲を分割出力させる手順(B)を説明します。

### - A1. 不要部分の選択とカット

録音後のサウンド情報(ドキュメント)から不要部分をカットします。

ドキュメントのウィンドウにマウスカーソルを移動させ音声の不要部分をマウスのドラッグで範囲選択します。

範囲選択された箇所は[選択区間]のウィンドウにも表示されています。  
時間単位で編集する場合は数字を入力して[適用(A)]ボタンをクリックします。

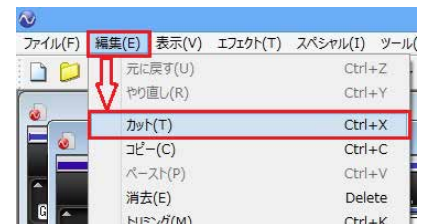


メニューバーの「編集」(E)、「カット」(T)をクリックし選択区間を切り取ります。

///メモ///

「カット」(T)の代わりに「消去」(E)でもOKです。

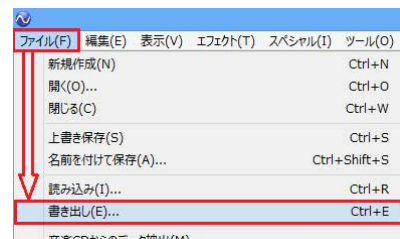
また、カットの範囲をやり直したい場合は、「編集」(E)、「元に戻す」(U)で操作を一つ戻せます。



### -A2. MP3 ファイルへの書き出し

編集後のサウンド情報(ドキュメント)から MP3 形式のファイルで書き出しを行います。

メニューの「ファイル」(F)、「書き出し」(E)を選択します。

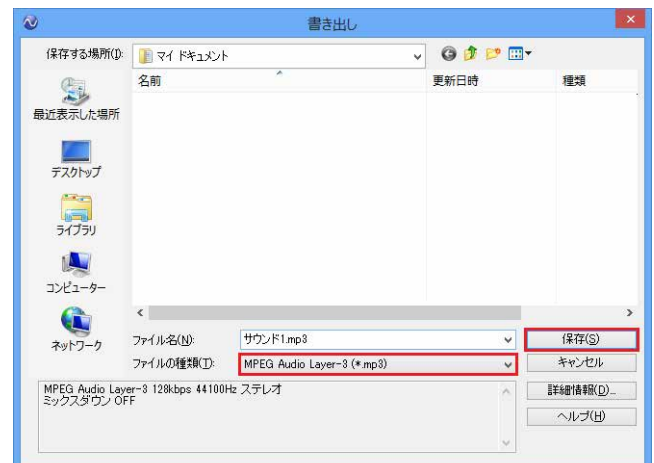


書き出すファイルの種類を『MPEG Audio Layer-3(\*.mp3)』を選択し、任意のファイル名に変更してから[保存(S)]ボタンをクリックしてください。

変換処理後、MP3 ファイルが作成されます。

///メモ///

ファイル形式の欄の[詳細(D)...]ボタンをクリックすることで、選択したファイル形式のビットレート等の設定が変更できます。  
MP3 の初期値の場合、128Kbps の固定ビットレート(CBR)になっています。



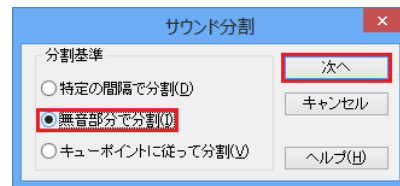
## -B1. 無音部分へキューポイントを設定

複数の曲を連続して録音した場合などに無音部分で曲を分割させます。

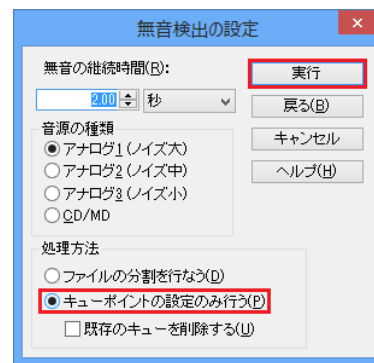
「ツール」 「サウンド分割(E)...」を選択します。



サウンド分割のウィンドウが表示されますので『無音部分で分割(I)』にチェックを入れ[次へ]ボタンをクリックします。

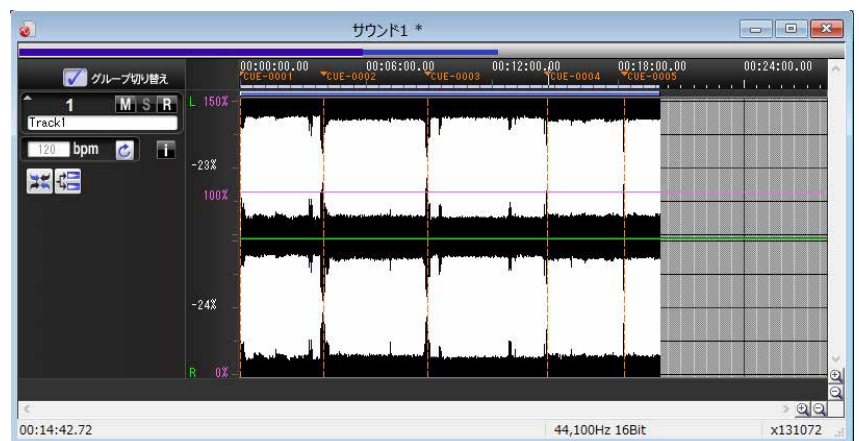


無音検出の設定画面が表示されますので、『キューポイントの設定のみ行う(P)』にチェックを入れ、[実行]ボタンをクリックします。



ドキュメントウィンドウに CUE-000x と橙色の文字で表示されているのがキューポイントになります。

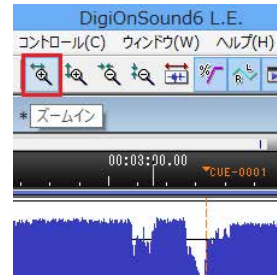
キューポイント付近を再生して、分割箇所間違いがないか確認してください。



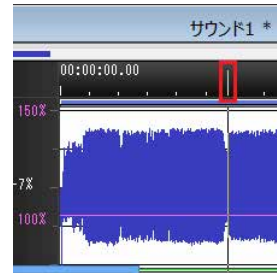
## -B2. キューポイントの追加/削除

サウンド分割でのキューポイント設定で指定されなかった箇所や分割ポイント以外にキューポイントが指定された場合、手動でキューポイントの追加/削除を行います。

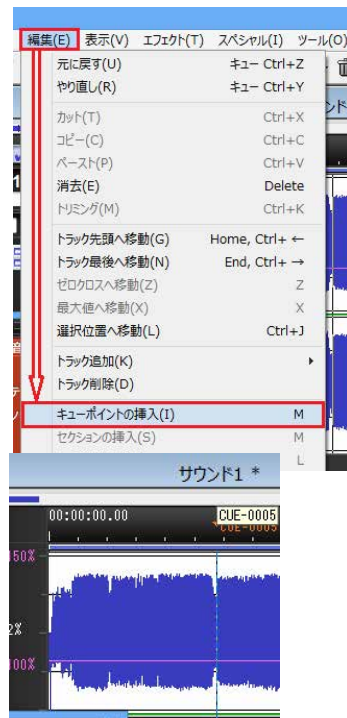
キューを追加したい箇所を指定しやすくするために『ズームイン』ボタンで時間当たりの横軸の幅を広げます。



キューポイントの追加したい箇所のタイムバー付近をクリックしますと縦にラインが入ります。



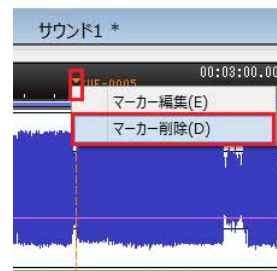
「編集」 「キューポイントの挿入(I)」を選択しますと、先ほどクリックした箇所に新たなキューポイントが作成されます。



キューポイントを削除する場合は、キューポイント付近にマウスカーソルを持っていくとカーソルアイコンが<sup>g</sup>になる箇所がありますので右クリックしてコンテキストメニューから『マーカーの削除(D)』を選択してください。

///メモ///

『マーカーの編集(E)』ではキューポイントの名称(CUE-000x)を変更できます。



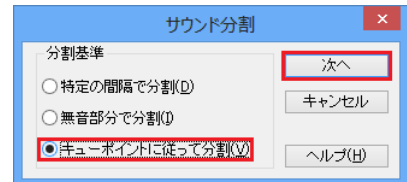
### -B3. キューポイントを使用したサウンド分割

キューポイントに従ってサウンド分割し MP3 形式のファイルで書き出しを行います。

「ツール」 「サウンド分割(E)...」を選択します。



サウンド分割の画面が表示されますので『キューポイントに従って分割(V)』を選択し[次へ]ボタンをクリックします。

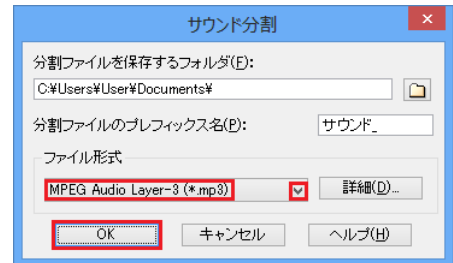


「ファイル形式」を『MPEG Audio Layer-3 (\*.mp3)』に設定して[OK]ボタンをクリックします。

///メモ///

ファイル形式の欄の[詳細(D)...]ボタンをクリックすることで、選択したファイル形式のビットレート等の設定が変更できます。

MP3 の初期値の場合、128Kbps の固定ビットレート(CBR)になっています。



分割処理が行われ、右図の様にファイル出力されます。

